

いしかわ まちづくり View

No.32

目次

■特集

「能登半島まちづくりシンポジウム in 和倉温泉」について…1
～広域交流時代に向けた能登の魅力創造～

■あのみち、このまち“まちづくりめぐり”

・犀川緑地に大桑地区が追加開園…………… 6

・滝ヶ原地区で石造アーチ橋を巡るウォーキング……………7

■センターだより……………8



特集

「能登半島まちづくりシンポジウム in 和倉温泉」について

～ 広域交流時代に向けた能登の魅力創造 ～

1. 開催概要

名 称 : 能登半島まちづくりシンポジウム in 和倉温泉

テ ー マ : 広域交流時代に向けた能登の魅力創造
～能登、そして和倉温泉がめざす方向性～

日 時 : 平成20年11月9日(日) 13:30～15:45

場 所 : 和倉温泉観光会館 大ホール

主 催 : 石川県・まちづくりシンポジウム in 和倉温泉 実行委員会

参加者数 : 610名

開催目的 : 平成19年3月の能登半島地震から約1年半が経ち、本格復興もようやく一段落を迎えました。一方、平成15年7月の能登空港開港、本年7月の東海北陸自動車道全通、整備が進む能越自動車道、そして平成26年の北陸新幹線開業等、広域交通網の整備が進んでおり、能登における観光を軸とした地域づくりにとって追い風が吹いています。本シンポジウムでは、広域交通網の整備等を踏まえ、「広域」「交流」「連携」の視点から、能登の各地域で進められているまちづくりや能登全体の魅力の創造について、また能登観光の拠点である和倉温泉の今後のまちづくりについて、地域住民の方々とともに考えます。

プログラム : 12:45 開 場

13:00 オープニングコンサート(あるもにフルート生演奏)

13:30 開会挨拶 杉本勇寿 石川県副知事

13:40 基調講演(下記参照)

14:35 パネルディスカッション(下記参照)

15:25 閉会挨拶 武元文平 実行委員会委員長

内 容 :

◇基調講演

演 題 「広域交流時代の能登に期待すること」

講演者 須田 寛 氏 (JR東海相談役、日本観光協会中部支部長)

◇パネルディスカッション

テーマ 「広域交流時代において活かすべき能登の魅力とめざすべき方向性」

パネリスト 塩安 愛子 氏 (輪島市馬場崎商店会専務理事)

角田 満寿子 氏 (能登町宇出津新町通り商店会おかみさん会会長)

加藤 真 氏 (穴水町街中活性化委員会代表)

多田 朗 氏 (和倉温泉街にぎわい再生協議会実行委員長)

進 行 小西 敦子 氏 (フリーアナウンサー)

○基調講演より(抜粋)

《新幹線のインパクト》

能登半島というのは、昔、岡山開業が新幹線をやったときの倉敷の位置と同じ所にあります。当時、岡山は東京から一番速い列車で約4時間かかりました。ここは、差し当たりは確か3時間から3時間半かかるだろうといわれていますが、金沢まで3時間台で来ることは間違いありません。それから車に乗るにしても、ここは4時間です。東京ー岡山間と同じ距離です。したがって、この能登半島の少なくとも和倉温泉的な能登半島の中心ぐらいの所までは、東京・岡山間のあのときと同じ状況になるのだということです。当時とはもちろん情勢が違ってきます。空港もたくさんできていますから違ってきますが、そういうインパクトが働くことだけは間違いないのです。

したがって、受け入れ態勢の整備とまちづくりと情報の発信を事前に倉敷のようにおやりになれば、私はこの能登半島の持続的な観光ブームがこれからも起こると思います。新幹線はいつまでもあるわけです。1年たったらなくなるのではありません。観光ブームは、一時的なものは半年か1年でなくなります。ほかの例が示していますから。そこを皆さま方にぜひお考えいただいて、今からご準備をいただきたいと思うわけです。



《観光資源の見直し》

観光資源をもう一遍見直していただきたいと思います。能登半島の方は恐らく、こんなに素晴らしい所に住んでいるのだとは多分お考えになっていないでしょう。交通が不便だと、寒い所だと、どうも何かあまり産業もないというようなイメージだけお持ちになっている方もいらっしゃると思います。謙譲の美德でそういうことをおっしゃるのは結構です。しかし、本当はこんな素晴らしい所に住んでいる人はおりません。全国的に見てもまれな風光を持った所だと思います。奥能登線があればもっと良かったのですが、とにかくそのようなことですので、もう一遍皆さま方が観光客の目になって、観光客の身になって、もう一遍この能登半島というもの、ご自分の住んでいる所をじ

っと見つめていただけないだろうかと思うのです。見事なリアス式の海岸があります。入り海があります。本当に素晴らしい景色です。そこに養殖のいかだが浮かんでいますね。それから島影に白い船が泊まっている。そして、きれいな緑の山野がその中にある。春になるとプラットホームいっぱい桜の咲くような駅もある。こんな所はほかにありません。いろいろな輪島の漆器、輪島塗その他地域の優れた産物もある。おいしい魚もあればいろいろな食がある。あらゆるものがそろっているわけです。こんな所は全国にありません。皆さま方はそう思っておられない方が多いと思います。ぜひ、もう一遍思い直していただきたい。

ここにお集まりの方は観光に関心があるからお集まりになったのでしょから、別かもしれません。皆さん方のご家族なり、ここにお集まりになった大部分の方は、恐らく能登半島について何とも思っていないで住んでいらっしゃる方がいらっしゃるのではないのでしょうか。こんなもったいないことはありません。したがって、私がここでお願いしたいのは、能登半島の観光資源をもう一遍観光客の身になって棚卸しをしてほしいと思うわけです。

《観光とは》

大切なことは、観光するのは「心」ということ。常在観光、どこにでも観光資源は自分の家にもあるのだということです。皆さま方のおうちも200年たてば、そのままあれば重要文化財になるのです。そのままないでしょうけれども、皆さま方のおうちにあるいろいろなお道具、古いもの、あれだって保存されていけば観光資源になるのです。それぞれの方が観光する心を持って、保存すべきものと捨てるべきものを観光という面からもう一遍見直してみる。大事なことだと思います。観光する心を持って観光客を温かく迎える。観光する心を持って、真摯な姿勢で、十分勉強もしながら観光地を訪れて、マナーに合った観光をする。観光客も、受け止める受け入れ側の人々も、また観光資源をつくる、まちづくりをする際も、すべての人々の心の中に観光する心というものが宿っている必要があると思います。そうすると、共通の言葉を持っているわけですから、共通の心を持っているわけですから、

そういう方々はお互いにコミュニケーション、対話ができるわけです。そこから私は新しい観光に刺激された新しい文化がそこに生まれると存じます。

したがって、観光というのは、一つの大きな文化です。同時にまた、それは広域的に展開される文化活動です。それから経済行為でもあるわけです。その三つがそれぞれ両立するのは、この能登半島のような観光資源に恵まれた、しかもこのような自然に恵まれたような地域でしかないと思います。ぜひともこの資源を活かして、新幹線の時代を今から準備をされて、素晴らしい姿で乗り切っていただきたい、迎えていただきたい、このように考えております。

○パネルディスカッションより（抜粋）



【加藤氏】

事業をやるごとに、いろいろな副産物が出てきます。例えば川、実は川沿いでビールを飲んだり楽しくやっているのだけれども、案外川のことには少し興味がなかったりしていました。ところが、そのうち川を眺めっていると、あまりきれいではない。これはやはりきれいにしなければいけないだろうと。だから今、川を浄化するような、少し学術的な方法で取り組んでいくという、そのように成長していく。特にその事業を続けるということで問題意識も生まれてくることにつながります。

もう一つ、震災ですけれども、震災を機会に始まった交流というものもあります。例えば神戸、あるいは新潟、川口町といった、やはり震災に遭って傷んだ者

同士だからこそ分かり合える、親身になれるという交流がありまして、よくお互いに行き来して物産交流をしたり、心の問題ケア、いろいろな話し合いの場が生まれています。これは震災のみならず、まちづくりにもつながっています。そういう意味では穴水町が一回り大きくなるチャンスではないかと思っています。

【角田氏】

宇出津の商店街は現在も家の建て替えやら電柱の地中化の最中です。イベント広場ができて、そちらにバス停を動かしていただきまして、よく利用されるようになりました。イベント広場はまんなか市の地物市をはじめ、寒ぶり祭りのときなどに大変有効に利用されるのですが、この寒ぶり祭りは、これまでのイベントが、宇出津の場合、地域の人が楽しむということが多かったのですが、こちらの寒ぶり祭りに関しては広域から観光客を呼び込み、さらに買い物をしていただくという、消費につながるイベントに発展しています。これは地元で捕れたぶりを即売するので、毎年ぶりがあるとかなないとかで冷や冷やするのですが、漁協や魚屋さんたちの協力で、今まで何とか無事にぶりが確保されまして、それを解体したり刺身にしたりして即売しています。

私たちおかみさん会や漁協のおかみさんたち、そして観光協会、商工会、また漁協、行政など、本当に町を挙げての協力の結果が、1年ごとに充実したイベントに成長しているのだと思います。本当にこれも大切な交流だと思います。これは今後も続けていくことが大事ですし、発信の仕方によっては、欲を出せば、もっと広域より観光客を呼び込むことができるように思います。例えば和倉や輪島に泊まれた人がぶり祭りの方に回ってくださるとか、反対にぶり祭りで楽しんでいただいた後、和倉や輪島の方に回っていただくということにつながったらいいなと思います。

今は本当に何でも手に入る時代ですが、そんな中観光に入られる人は、能登の持つこの何とも言えないほっとする優しさとか、そして静けさとか、懐かしさを求めておいでるように思います。懐かしい風景とか懐かしい味などに人の心は引かれると思いますし、

普段私たちが当たり前食べているお米や魚、野菜などが本当は一番ぜいたくでおいしいもの、そういうものを求められているのだと思います。

車の窓から見える日常の何気ない景色の中にも発見がありますし、また先ほど先生がおっしゃったように、体験して喜んでもらうこともできると思います。見たり食べたり体験したりして、思い出として記憶に残ったことが、また行きたいという気持ちにつながると思います。それは、そこに住む私たちが自分の住んでいる町に誇りを持って、そして魅力を発見して、発信して、そして継続していくことが何より大事だと思います。外からの人には全体を能登と見られるのですから、それには本当にお互いの町が協力して交流することによって、能登全体の魅力として発信して、満足してもらい、何度でも来ていただけるようになってほしいと思います。



今日、須田先生のお話を聞きまして、正直な話、これまで宇出津という場所は和倉や輪島のように特に観光地ということではないと思っていたのですが、観光客が求めるニーズというのはそういうものではなくて、もっと深いものがあって、自分たちで探し出すことができるということを聞きまして、今がチャンスととらえました。本当に広域で、プラスの発想でとらえていくことが必要だということを今本当に感じました。

【塩安氏】

自分たちがどういう位置なのかとか、どういうらしきがあるのかということはやはり再認識しなければい

けないと思います。私たちの「馬場崎」という場所は、皆さんお聞きになってもどこかなと思うのですが、今「ふらっと訪夢」になっています旧輪島駅から朝市の方向に向かって、真っすぐの道路の一部分なのです。私も住んでいる者でさえも、だいぶ長いこと「駅前通り」という名前で発信していました。それを10年ほどにこの「都ルネ」が起こったときに、「馬場崎」という名前を大事にしようと。そんなことで、今まで意識していなかった名前とか由来とか、やはりそういうことを大事にしていって、小さいですけどもまちづくりをしていこうと思っています。

輪島塗に関して、7月の洞爺湖サミットの乾杯のときに輪島塗の杯を使っていたら、福田元首相が皆さんに説明してくださっているような写真の報道もありました。そういうことが一つのきっかけとなって、私たちが世界に認められるということで自信と誇りを持っていられます。再発見、再認識をしようと。今後も行政と連携しながら元気に取り組んでいかなければと思っています。



【多田氏】

和倉は能登半島の国定公園の玄関口であるという解釈をしています。その玄関の間口、あるいはロビーでも言いたいでしょうか、それは能登でも一番広いものであり、たくさんのお客さんを受け入れることのできる大型宿泊施設を有している所と思っています。和倉を玄関口に例えるなら、玄関に入った方がまず旅の疲れを癒していただいてから、次の日にどの部屋を訪れたらいいのか、こういうことを考えて、そしてその選ん

だ部屋でいろいろと楽しんでもらう。その部屋が輪島であったり、能登町であったり、穴水町であったりということなのです。もちろんお客さんにはその部屋の情報を現地と連絡調整し合って詳細にお伝えし、ニーズに合った選択をしてもらおうと。そういったところが和倉の役割かなと思ったりもしています。

現代のお客さんの旅行パターンというのは、1泊2日から2泊3日、あるいは団体客より家族連れ、少人数での旅が多いということでした。連泊して楽しむ旅にするには、もちろん和倉で泊まってもらい、1泊は和倉、1泊は輪島、そういったいろいろなお客さんのニーズに合ったプランの提供をしてあげべきだと思います。街中のにぎわいを取り戻すための計画も必要ですけれども、他地域との連携も必要不可欠と感じておきます。

和倉は能登半島の玄関口であるという観点から、広域的に他地域との連携を図って、お互いに情報交換をしながら助け合っていかなければならないと思います。能登において一番の宿泊機能を備えていますから、和倉に泊まって、能登のいろいろな情報を抱えて、能登を楽しんでもらう。能登の情報発信基地、ベースキャンプとしての役割も持つべきであると思います。そのためにも、能登の拠点としての和倉が、旅館さん個々の努力はもとより、まち全体がお客さんを迎えるためのハードやソフトの整備が今後ますます必要になってきて、それに向かって頑張っていかなければならないなど、今日はつくづく考えさせられました。

この和倉のまちづくりはまだ始まったばかりで、これからさまざまな問題が出てくると思います。本日、皆さんの貴重な体験談とご意見を参考にしながら、さらなる連携と協力をして、和倉の求められている、あるいはしなければならない「役割」を果たしていきたいと、このように考えております。

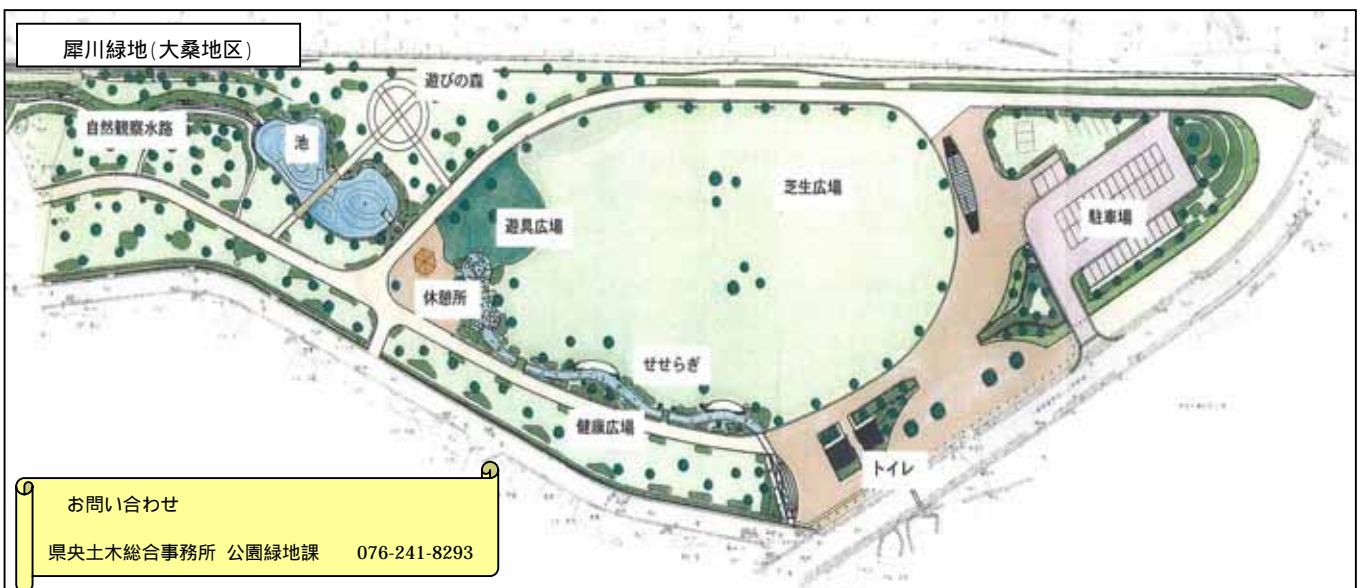
犀川緑地に大桑地区が追加開設

犀川緑地は、犀川河口から金沢市大桑町までの約13kmの区間と犀川の支流である伏見川・高橋川の河川空間を公園として整備したものであり、河川敷を芝生等で緑化し、景観を保全するとともに散策やレクリエーションに利用されています。

このうち、犀川沿いの最上流部に位置する大桑地区は、犀川緑地の上流側のエントランスゾーンとして、平成10年度から工事が進められ、このたび概ねの施設整備が完了したことから、11月に開設されることとなりました。

大桑地区では、これまでに開放的な芝生広場を中心として、親水性を有するせせらぎ、水辺の生物・植物の生息環境を目指したビオトープ池・自然観察池、駐車場、トイレなどが整備されています。

今後、引き続き、パーゴラや健康遊具等も整備することとしており、利用者すべてに潤いと安らぎを与える公園を目指しています。

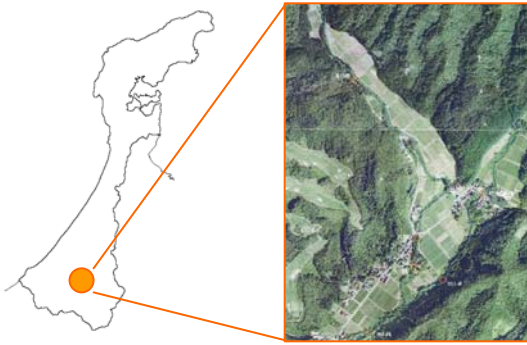


お問い合わせ
 県央土木総合事務所 公園緑地課 076-241-8293

滝ヶ原地区で石造アーチ橋を巡るウォーキング

1. 開催概要

- 開催日 平成20年7月27日（日）9:00～15:00
- 会場 小松市滝ヶ原町
- 主催 滝ヶ原町鞍掛山を愛する会
- 参加者 30名（小松市内小中学生及び関係者）



2. 開催目的

貴重な文化遺産である石造アーチ橋と里山自然景観の保全活動をおし、地域の担い手である子ども達の地域を愛する心を育み、活力あるまちづくりに寄与することを目的として開催しました。

3. 開催内容

①集合



▲公民館前に集合



▲見学順路の説明風景

②石造アーチ橋見学



▲石橋の説明風景



▲丸竹橋で説明を聞く参加者



▲美しい石造アーチ



▼石橋を下からも見てみました

③石切丁場見学



▲石切丁場見学



▲とても精巧なアーチの模型



▲石橋の模型でアーチ橋の説明を聞きました



4. 事業成果

参加した子ども達からは「地域の歴史、昔の人の知恵を知ることができた」、「石造アーチ橋をずっと大切にしたい」、「もっと多くの人達にこの石橋のことを知ってほしい」等の意見が多く寄せられ、地域資産への理解、関心を深めることができました。

センターだより

～「まちづくりリーダー養成事業報告会」開催！～

1. はじめに

当センターでは、将来のまちづくりを担う人材の育成を目指し、子供達を対象とした「いしかわこども未来創造まちづくり事業」を展開しており、その報告の場と「まちづくりリーダー養成事業報告会」を開催しています。

今年度は平成21年1月11日（日）に金沢市地場産業振興センターで開催しました。

2. まちづくりリーダー養成事業報告会 概要

今年度は4名の報告会座長・委員、7名の報告者を含む40名の方にご出席をいただき、6団体の活動報告に関して意見交換を行いました。

■今年度の活動報告・活動団体

- ①「石造アーチ橋を巡るウォーキング」
小松市 滝ヶ原町鞍掛山を愛する会
- ②「栗津おっしょべ子ども太鼓」
小松市 栗津温泉をよくする会
- ③「和倉温泉こども灯籠流し」
七尾市 和倉温泉まちづくり推進室
- ④「山代温泉こども大田楽」
加賀市 特定非営利活動法人はづちを
- ⑤「白峰街並みライトアップ」
白山市 雪だるま倶楽部
- ⑥「こども奥能登絶景海道めぐり」
珠洲市 奥能登岬みちづくり協議会

3. 意見交換

各活動はどれも、子供達にまちのことを知ってもらい、まちへの愛着を深めてもらい、地域活動などへの積極的な参加を促し、将来のまちの担い手を育むことを目的に開催されたものでした。それらの活動に対して委員から様々な貴重なご意見をいただきました。

■意見要旨

- 中学生、高校生、大学生は都会に目が向きがちですが、根っこの部分がしっかりしていれば、外に行っても戻ってきます。小さいうちに地域の良さやまちづくりの大切さを実感することは良いことだと思います。
- 今後は子供達を巻き込んだ企画会議を行い、企画の段階から子供達がまちをどのようにしたいのかを考えさせることによって自分たちがまちづくりに携わったという意識を持たせることが大切だと思います。
- 我々が思っているよりも子供達は活動のなかから学び取る力を持っています。子供達が地域の伝統の深さを伝えることができれば、子供達の心の深く育てることができ、ひいては地域の発展につながります。



編集後記

今回は、「能登半島まちづくりシンポジウム in 和倉温泉」について拡大して特集しました。

今後、新幹線の開通、能越自動車道の開通等により広域交流時代を迎えるにあたり、どのようなまちづくりをしていかなければならないのかを考える機会となりました。

今後とも当センターは少しでも皆様のまちづくりにお役に立てるよう取り組んでまいりますので、ご活用・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集協力：石川県都市計画課

発行：(財)いしかわまちづくり技術センター

TEL 076-232-2255 FAX 076-232-2532

HP <http://www.machisen.jp/>

発行日：平成21年3月